

# 陸封型トゲウオ類

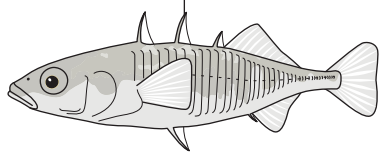
イトヨ類(ハリヨ含む) *Gasterosteus* spp.  
トミヨ類 *Pungitius* spp.

環境省レッドリスト:

絶滅危惧ⅠA類(ハリヨ、ムサシトミヨ、トミヨ 属雄物型)  
準絶滅危惧(エゾトミヨ)  
絶滅のおそれのある地域個体群  
(福島県以南の陸封型イトヨ類、本州のトミヨ 属淡水型)

イトヨ類(ハリヨ含む)

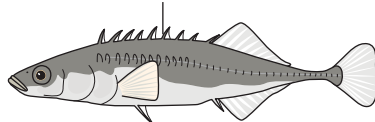
背びれに独立した棘が3~4本ある



全長: 約5~7cm

トミヨ類

背びれに連続した棘が7~10本ある



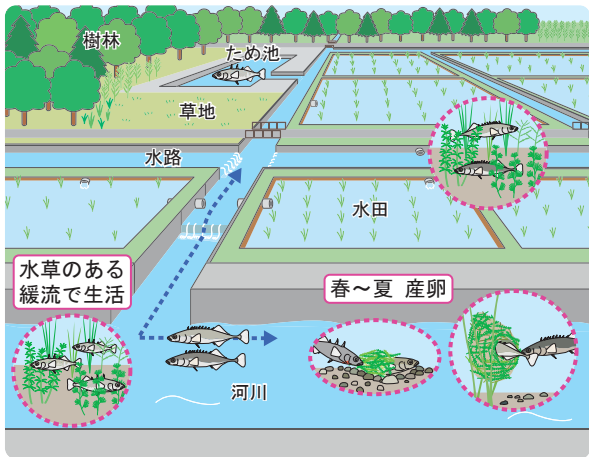
全長: 約5cm

メモ

日本のトゲウオ類はイトヨ類とトミヨ類に大別されます。トミヨ類とイトヨ類は、背びれの棘の数で区別します。

生態

--->: 本来の移動経路    ○: 生息環境



主な産卵環境と生息環境

←→: 主な生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
	産卵		産卵	産卵	

生活史

河川や水路、ため池に生息します。豊富な湧水と、砂泥底と水草のある緩流環境を好みます。主に春から夏にオスが水草の繊維などで巣を作り、メスはその中に産卵します。オスは巣の周辺で稚魚が自立するまで守ります。

写真



「トミヨ 属淡水型」と呼ばれる種分類が複雑なため、名前の付いていない種も多くなります。



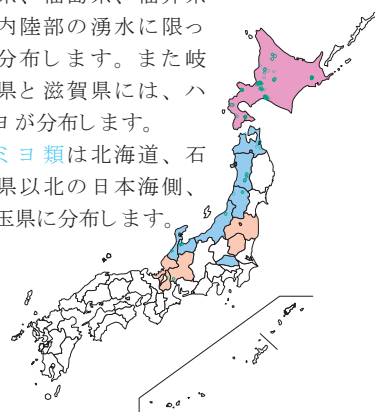
ムサシトミヨの最後の生息地(埼玉県熊谷市) 巢材となる水草が多く繁茂しています。

湧水環境に依存するトゲウオ類は、各地で減少の一途を辿っています。ミナミトミヨはすでに絶滅したほか、ムサシトミヨも埼玉県の一箇所に生息するのみとなっています。

分布

●: 「田んぼの生きもの調査」での確認箇所

イトヨ類は北海道と栃木県、福島県、福井県の内陸部の湧水に限って分布します。また岐阜県と滋賀県には、ハリヨが分布します。  
トミヨ類は北海道、石川県以北の日本海側、埼玉県に分布します。



配慮対策

## 生息環境の確保

### 水路、ため池における湧水、砂礫、水草の創出

#### ◆環境配慮型水路の対象工法

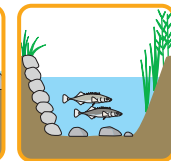
#### 【水路断面】

- ①瀬・淵 p.69
- ②ワンド p.70
- ④敷石、砂、砂利、玉石、植生 p.72

#### 水路断面



#### 水路護岸



#### 【水路護岸】

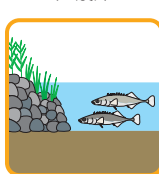
- ⑤土水路 p.73
- ⑥かご系 p.74
- ⑦木系 p.75
- ⑧自然石系 p.76
- ⑨二次製品系 p.77
- ⑩複合系(井桁護岸) p.78

#### ◆保全池・ビオトープの対象工法

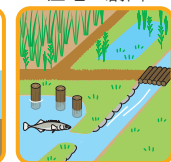
#### 【池護岸】

- ①自然石系 p.85
- ②複合系 p.86
- (捨石等による緩傾斜護岸)
- ③かご系 p.87
- ④木系 p.88
- ⑤二次製品系 p.89

#### 池護岸



#### 池、水路、湿地の創出



#### 【池、水路、湿地の創出】

- ⑥保全池 p.90
- ⑦承水路 p.91
- ⑧耕作放棄地等のビオトープ化 p.92

#### 【配慮ポイント】

・生息および産卵環境となる、湧水の配慮、水草の生育、緩流域の形成、砂礫の堆積が可能となる工夫が必要です。

## 移動経路の確保

### 水路内の落差の解消

#### ◆魚道の対象工法

#### 水路魚道



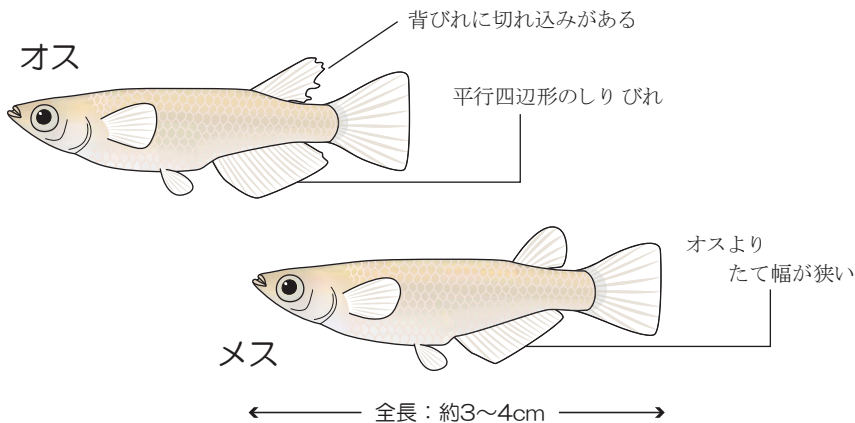
#### 【水路魚道】

- ⑤階段型 p.61
- ⑥隔壁型(千鳥X型) p.62
- ⑦隔壁型(ハフーン型) p.63
- ⑧片斜面粗石付魚道 p.64

#### 【配慮ポイント】

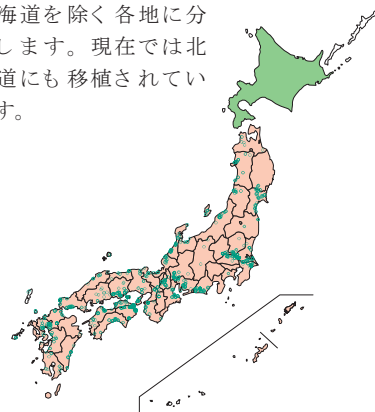
・水路における生息を配慮して、水路魚道を設置します。体が小さく遊泳力が弱いため、流速は緩やかになるように設定します。

別名：ウルメ、コメンジャコ、タカマーミ などたくさん呼び名がある。



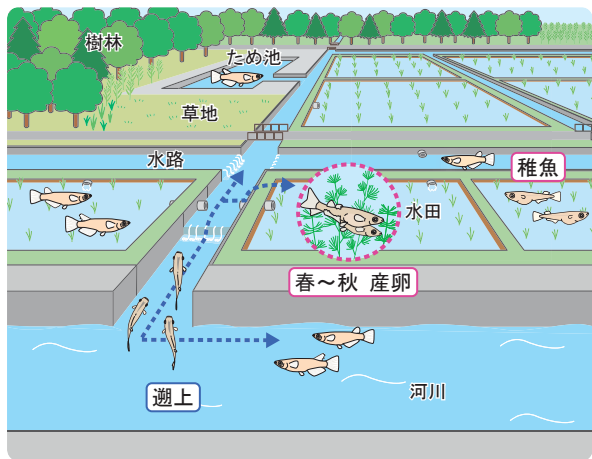
### 分布

●：「田んぼの生きもの調査」での確認箇所  
本州から琉球列島まで、北海道を除く各地に分布します。現在では北海道にも移植されています。



**メモ** 目が大きく高い位置に付いているので、目高と呼ばれます。水面下を活発に泳ぎます。

### 生態



### 主な産卵環境と生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
	産卵	産卵	産卵	産卵	

### 生活史

河川から水路、ため池などに広く生息し、**水田にもよく遡上**します。春から秋に**水草**などに**産卵**します。冬季は活動がにぶり、**常時湛水域**などで過ごします。

### 写真

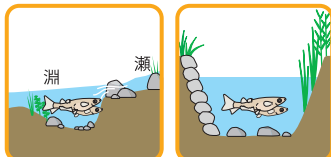


春の小川を泳ぐメダカの姿は、かつてはどこでも身近にみられた光景でしたが、今や希少種として取り上げられるほど数を減らしています。

### 配慮対策

#### ■ 生息環境の確保 水草の創出

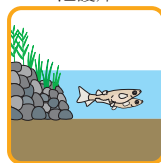
##### ◆ 環境配慮型水路の対象工法



- 【水路断面】
- ①瀬・淵 p.69
- ②ワンド p.70
- ④敷石、砂、砂利、玉石、植生 p.72

- 【水路護岸】
- ⑤土水路 p.73
- ⑥かご系 p.74
- ⑦木系 p.75
- ⑧自然石系 p.76
- ⑨二次製品系 p.77

##### ◆ 保全池・ビオトープの対象工法



- 【池護岸】
- ①自然石系 p.85
- ②複合系 p.86
- (捨石等による緩傾斜護岸)
- ③かご系 p.87
- ④木系 p.88
- ⑤二次製品系 p.89

【配慮ポイント】  
・産卵場となる**水草**の生育が可能となる工夫が必要です。

#### 常時湛水域の創出

##### ◆ 保全池・ビオトープの対象工法



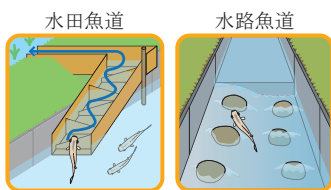
- 【池、水路、湿地の創出】
- ⑥保全池 p.90
- ⑦承水路 p.91
- ⑧耕作放棄地等のビオトープ化 p.92

【配慮ポイント】  
・落水時や冬季に過ごす、**常時湛水域**が形成される工夫が必要です。

#### ■ 移動経路の確保

##### 水田と水路間の落差の解消、水路内の落差の解消

##### ◆ 魚道の対象工法



- 【水田魚道】
- ①隔壁型(千鳥X型) p.57
- ②隔壁型(ハーフコーン型) p.58
- ③排水路堰上げ式 p.59
- ④波付管 p.60
- 【水路魚道】
- ⑤階段型 p.61
- ⑥隔壁型(千鳥X型) p.62
- ⑦隔壁型(ハーフコーン型) p.63
- ⑧片斜面粗石付魚道 p.64

【配慮ポイント】  
・**水路を経由して水田に遡上、産卵**するため、水路魚道・水田魚道を設置します。体が小さく遊泳力が弱いので、流速が緩やかになるように設定します。